
2026年6月期 決算説明資料

2026年8月27日

株式会社リファインバースグループ

証券コード: 7375

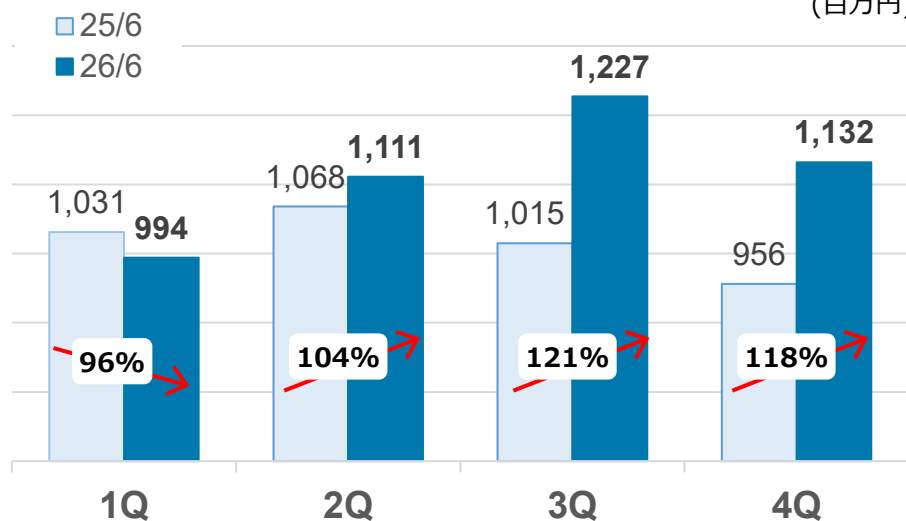
2026年6月期決算および2027年6月期決算見通し

営業利益は過去最高益を更新し、下期以降に資源ビジネスのサービス利用が新規顧客に浸透しはじめYoY成長率が加速。
包括契約締結済みの大手顧客の当社サービス利用はまだ初期段階であり、今後も拡大余地は大きく残っている。

	2025年6月期	2026年6月期			(百万円)
	金額	金額	前期比	増減額	
売上高	4,070	4,464	110%	394	
営業利益	182	320	176%	138	
EBITDA	408	528	129%	120	

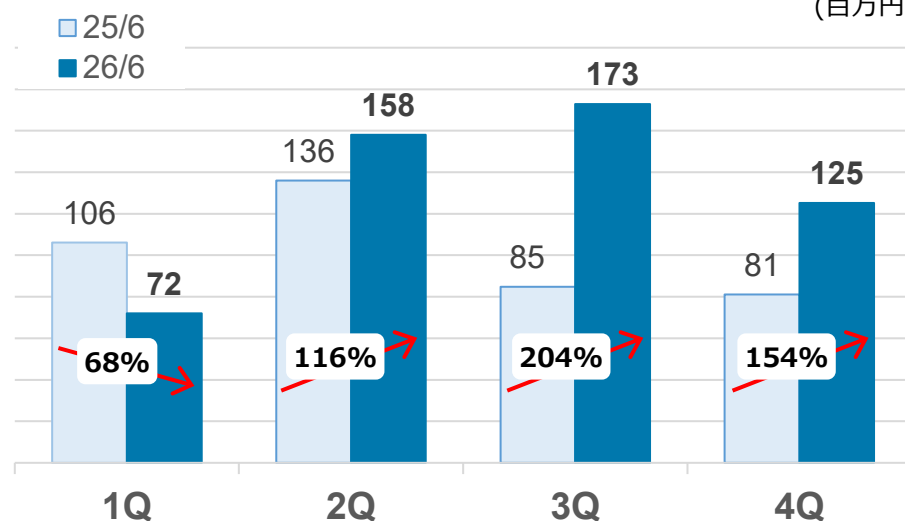
《売上高 四半期推移》

(百万円)



《EBITDA 四半期推移》

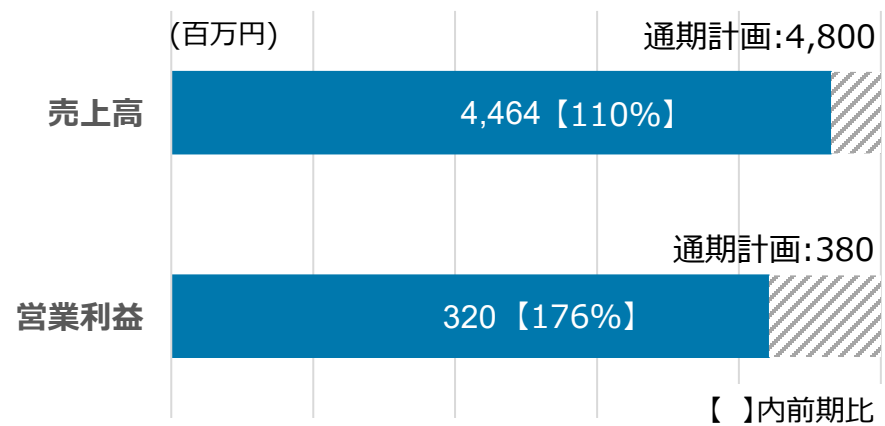
(百万円)



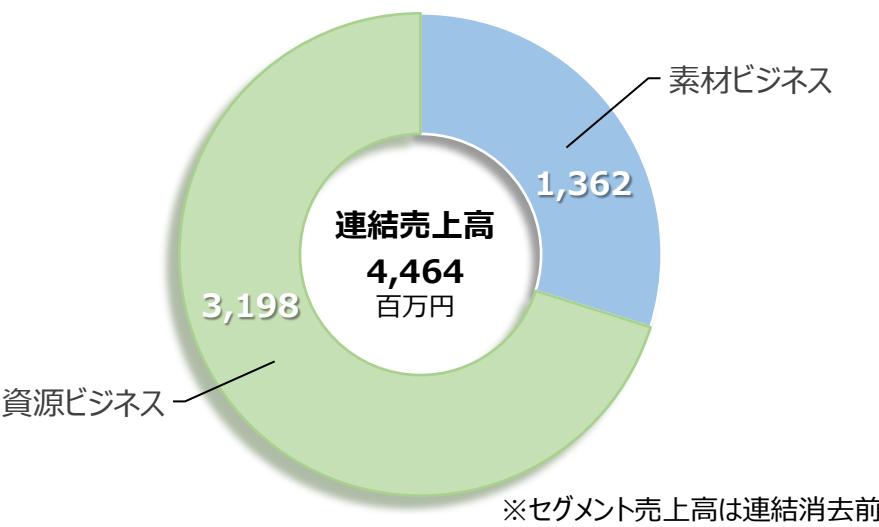
契約締結後の取引拡大までの時間が当初想定よりも遅れたことが影響し期首予想を下回るも、大手デベロッパを中心に包括契約締結顧客は順調に増加。契約締結後のサービス利用の浸透が進んでおり中計達成に向けて堅調に推移している。

セグメント	中期成長施策	2026年6月期実績
素材ビジネス	■ タイルカーペトリサイクルによる環境性能向上を訴求し、原状回復工事等で発生する使用済みタイルカーペットの回収を拡大	タイルカーペット調達量 22,473t (前年比112%)
	■ 油化ケミカルリサイクル原料、マテリアルリサイクル原料の販売量を拡大	油化ケミカル原料供給開始 100t
資源ビジネス	■ タイルカーペット回収時に同時に発生する混合廃棄物の処分委託を拡大することで、受注件数を拡大	資源受注件数 47,783件 (前年比111%)

「対通期計画進捗状況」



「セグメント売上高構成」



カーボンニュートラル/サーキュラーエコノミーのニーズを背景として大手企業との取引増加が業績を牽引。一方で人手不足に起因した現場対応力の悪化が業界の課題となっており、AX/DXによる現場対応力の強化が今後の成長の鍵となる。

	2025年6月期		2026年6月期				
(単位：百万円)	金額	構成比	金額	構成比	前期比	増減額	増減コメント
売上高	4,070	100.0%	4,464	100.0%	110%	394	タイルカーペット調達、資源受注共に増加し、売上高が増加
売上総利益	1,324	32.5%	1,626	36.4%	123%	302	人員増強をしつつ、生産オペレーションの見直しにより生産性向上
販売管理費	1,141	28.1%	1,306	29.3%	114%	165	タイルカーペット・リサイクルPR、人員採用を強化
営業利益	182	4.5%	320	7.2%	176%	138	DX化による業務効率向上により業務生産性向上
経常利益	151	3.7%	282	6.3%	187%	131	
当期純利益	146	3.6%	255	5.7%	175%	109	

2026年6月期 連結貸借対照表

新規事業への設備投資により有形固定資産が増加。期末での手元資金は設備資金の支払いなどで一時的に減少しているが
必要資金の調達に懸念はなし。純資産は順調に増加。

単位：百万円	2025年6月末
流動資産	1,432
現金及び預金	692
受取手形及び売掛金	449
その他	291
固定資産	2,029
有形固定資産	1,752
無形固定資産	29
投資その他の資産	246
資産合計	3,461
流動負債	1,108
支払手形及び買掛金	178
1年内返済予定長期借入金	548
その他の流動負債	382
固定負債	2,079
長期借入金	1,782
その他の固定負債	297
負債合計	3,187
純資産	274
負債純資産合計	3,461

2026年6月末	増減額	コメント
1,188	▲244	
274	▲418	借入金の返済と設備投資による減少
547	98	
367	76	
2,446	417	
2,028	276	ポリオレフィンリサイクル設備導入による増加
60	31	
357	111	
3,634	173	
1,266	158	
195	17	
536	▲12	
535	153	設備未払金が増加
1,833	▲246	
1,463	▲319	借入金の返済による減少
370	73	
3,099	▲88	
534	260	当期利益計上による純資産増加
3,634	173	

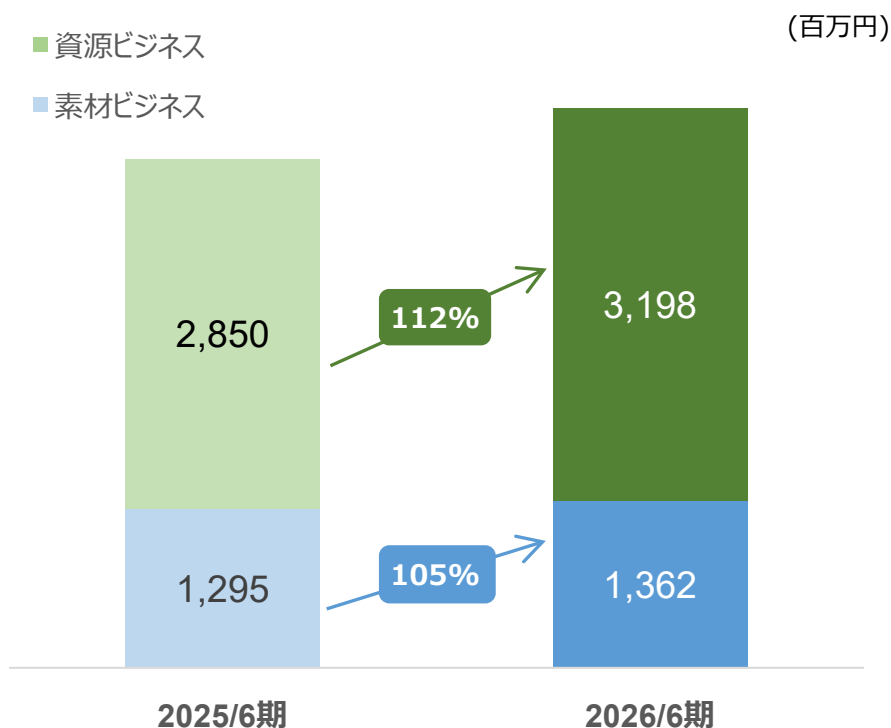
単位：百万円、（ ）内は前年比率

	2026年6月期		業績サマリー
	売上高	セグメント利益	
素材ビジネス	1,362 (105%)	212 (434%)	■ カーペットタイルリサイクルは、前期に引き続きリサイクルタイルカーペットの販売好調が継続し再生塩ビパウダーの需要は高位継続。 環境対応に敏感な大手デベロッパーを中心にタイルカーペットのリサイクルを訴求することで使用済みタイルカーペット調達量の増加を進め、処分売上・製品売上が増となりセグメント利益は前期比435%と大幅増加。 ■ 高機能樹脂は、ポリオレフィンリサイクルの立上げに伴う事業拡張に伴い、蒲郡工場(愛知県蒲郡市)に生産拠点を移転。ナイロン樹脂の海外市況は軟調であり国内顧客を中心に販売を実施。 ■ 三菱ケミカルの油化ケミカルリサイクル設備竣工と同期し、ポリオレフィン(PE,PPなど)リサイクルを開始。蒲郡工場に加えリファインバースイノベーションセンターにも再資源化ラインを建設し、油化ケミカルリサイクル向け原料だけでなくマテリアルリサイクル素材を来期以降供給していく。 ■ 再生ゴム素材(RENAMY)、自動車内装材由来のアスファルト改質剤(REOCA)のテストマーケティングを開始し、次中期に向けて量産化を進めていく。
資源ビジネス	3,198 (112%)	753 (124%)	■ タイルカーペトリサイクル、廃プラスチックリサイクルなどの資源循環を切り口として大手デベロッパーを始めとした幅広い新規顧客との契約が増加し、各顧客から受注を開始。既存顧客からの案件獲得も堅調に推移し、受注件数は過去最高レベルを維持。新規契約先とは今後取引高が順次増加する見込み。 ■ DX化を推進し業務効率向上にで創出した経営資源を現場オペレーターの採用に割り当てることで人手不足が大きな課題となっている業界課題を解決。 顧客向けサービスレベルを向上することで競争優位を確立したことが売上増に貢献。 ■ 今後のさらなる売上増に向けて、引き続き体制強化を推進。採用基準・教育内容を抜本的に見直し、現場オペレーターの質と量の双方から競争優位性を強固にしていく。

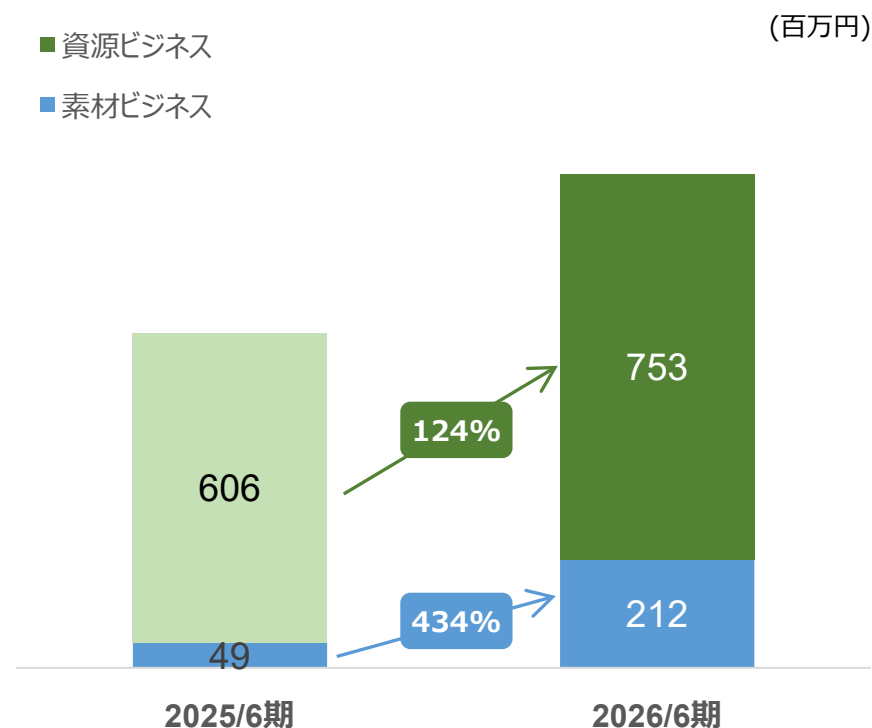
資源セグメント・素材セグメント共に受注増により増収が継続。カーペットリサイクル事業が牽引役となり、資源セグメントの受注増につなげる戦略が機能しており、両事業の相乗効果による成長の型を更に強化する。

両事業ともに生産性向上と適切な価格改定効果によりセグメント利益率は改善している。

《セグメント別売上高推移》



《セグメント別営業利益推移》

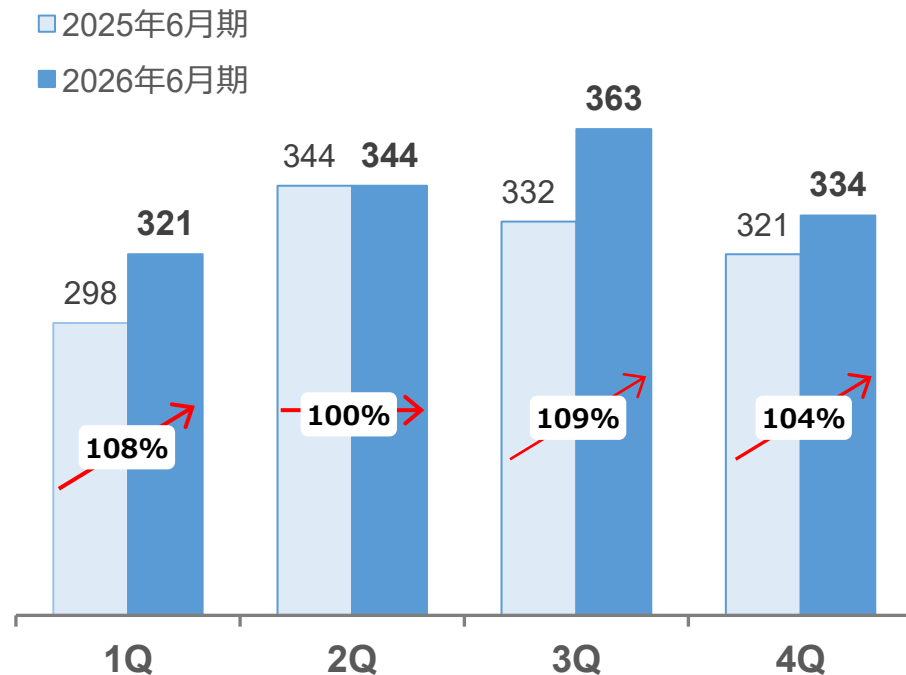


大手企業の環境対応を背景として再生塩ビコンパウンドの需要は旺盛。中東情勢の影響により中長期的なBCP観点でも国内資源循環による資源確保の動きが強まってくる見通し。

汎用プラスチックの代表格であるポリオレフィンの再生事業は、新たに開発した高純度化技術の導入により、マテリアル/ケミカルリサイクルの双方で活用可能な新たな循環資源に昇華。今後の素材ビジネスの成長の核として期待。

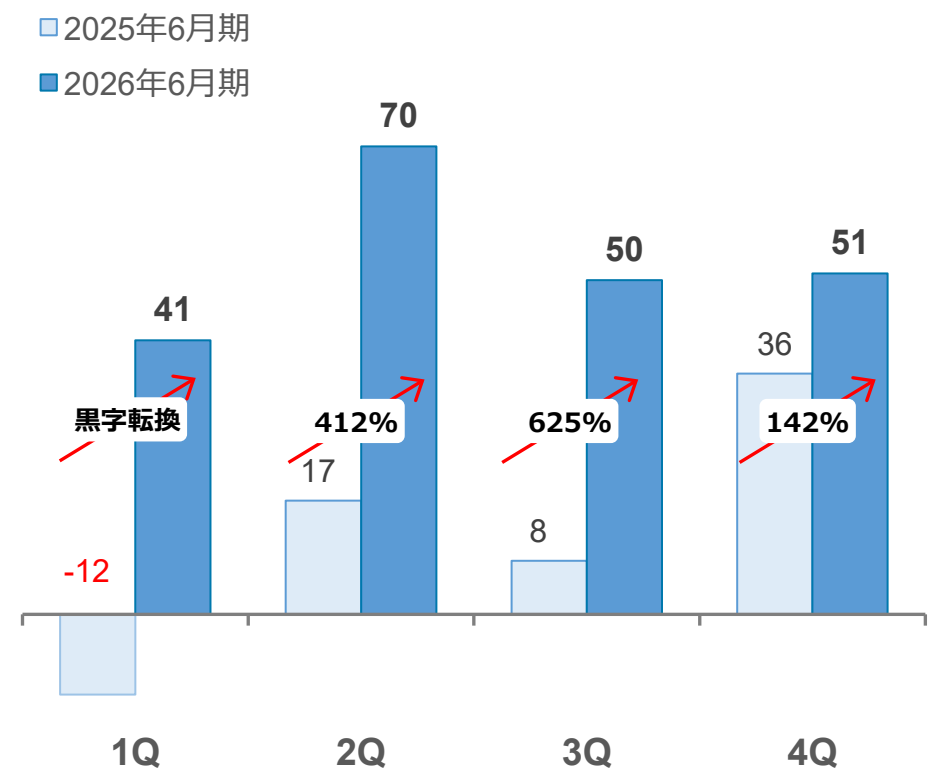
《素材ビジネス 売上高推移》

(百万円)



《素材ビジネス 営業利益推移》

(百万円)



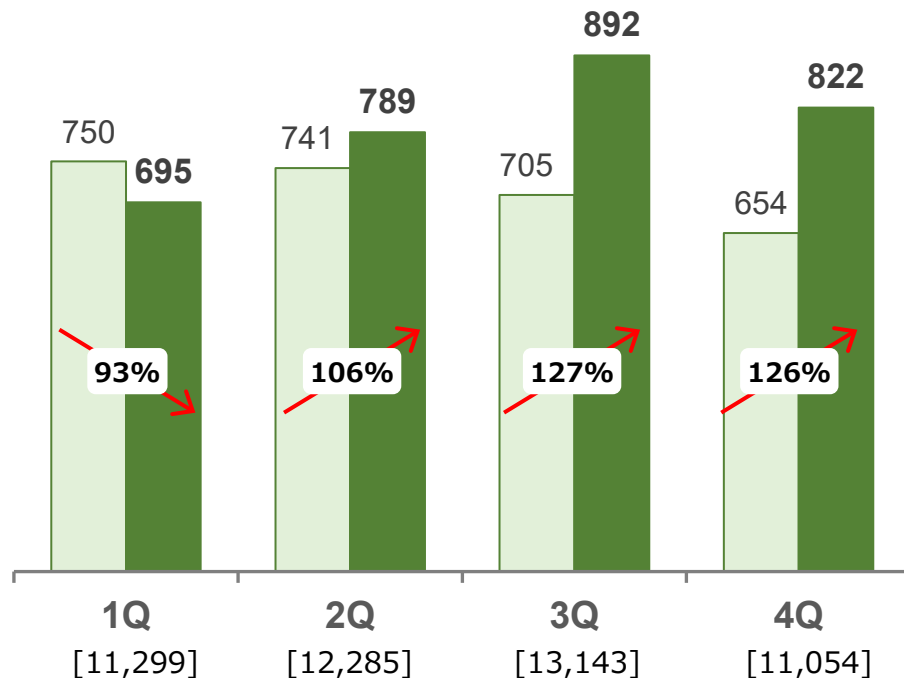
タイルカーペットリサイクルとの連動受注が奏功し契約済み大手顧客のサービス利用が浸透してきている。

人手不足に起因した現場サービスレベルの低下が業界の課題であるが、現場対応力を高める各施策の実行により競合優位性を強固にすることで顧客シェアを高めることに注力。

《資源ビジネス 売上高推移》

(百万円)

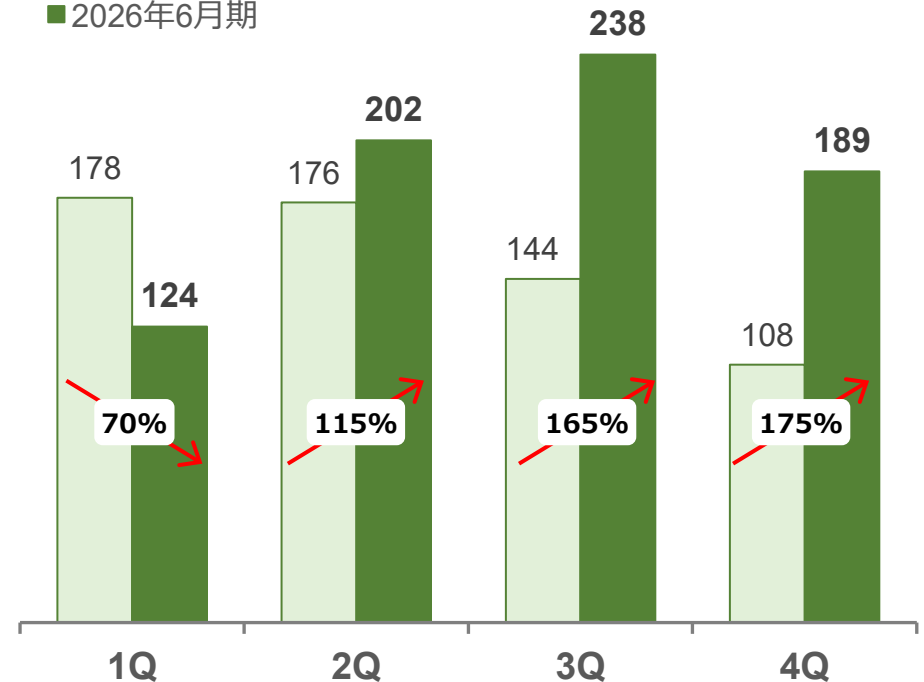
□ 2025年6月期
■ 2026年6月期



《資源ビジネス 営業利益推移》

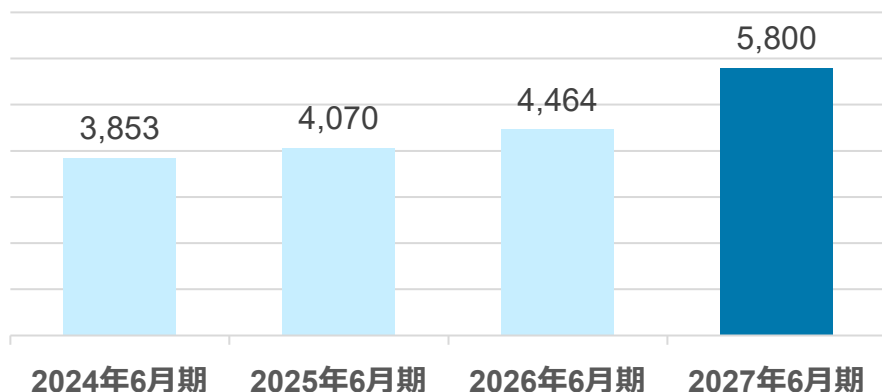
(百万円)

□ 2025年6月期
■ 2026年6月期

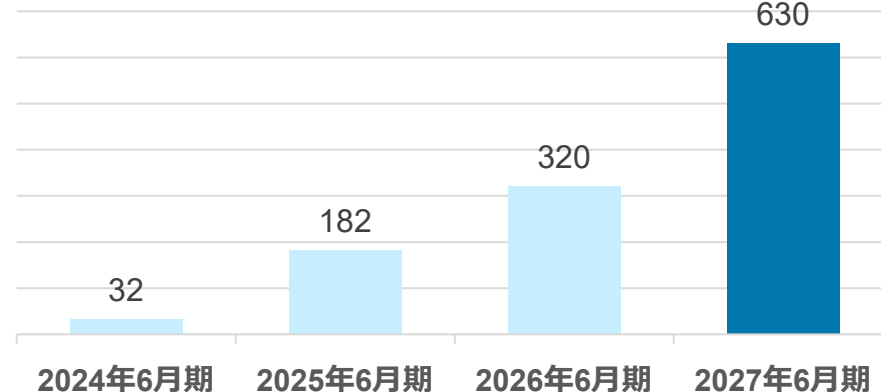


中期経営計画2年目である2027年6月期は、中期経営計画「Growth100」の目標値である「売上高=100億円」、「EBITDA=20億円」の達成を目指し、タイルカーペットリサイクル、油化ケミカルリサイクルをフックとした資源セグメントとの連動受注を継続し、契約済み顧客からの受注量の拡大を進めていく。

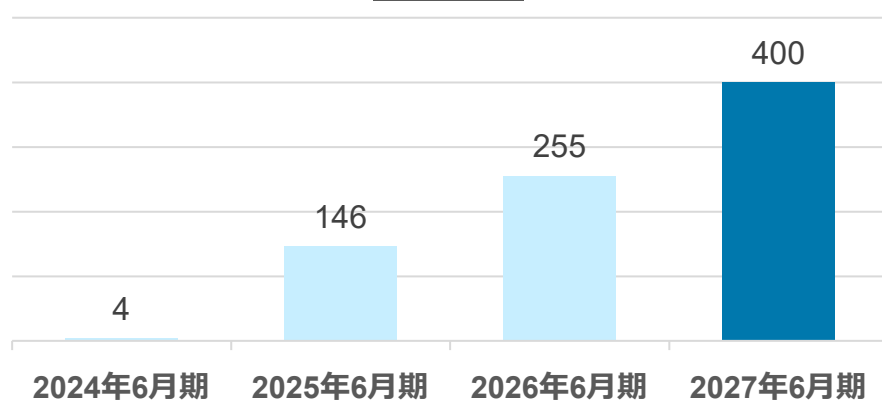
《売上高》



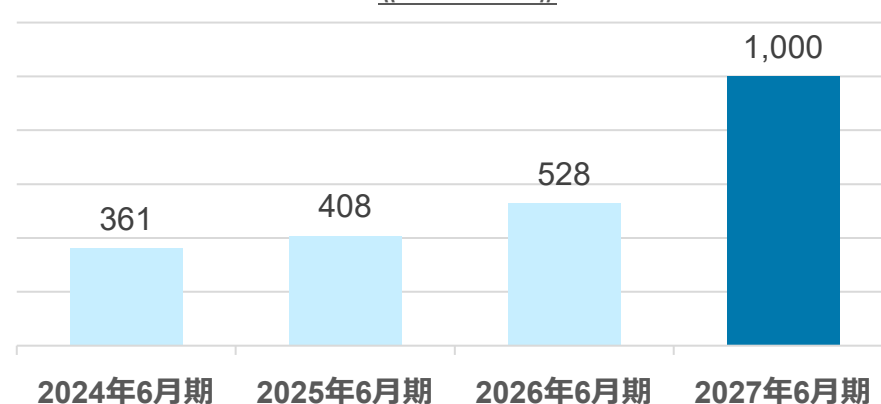
《営業利益》



《純利益》



《EBITDA》



中期経営計画「Growth100」進捗状況

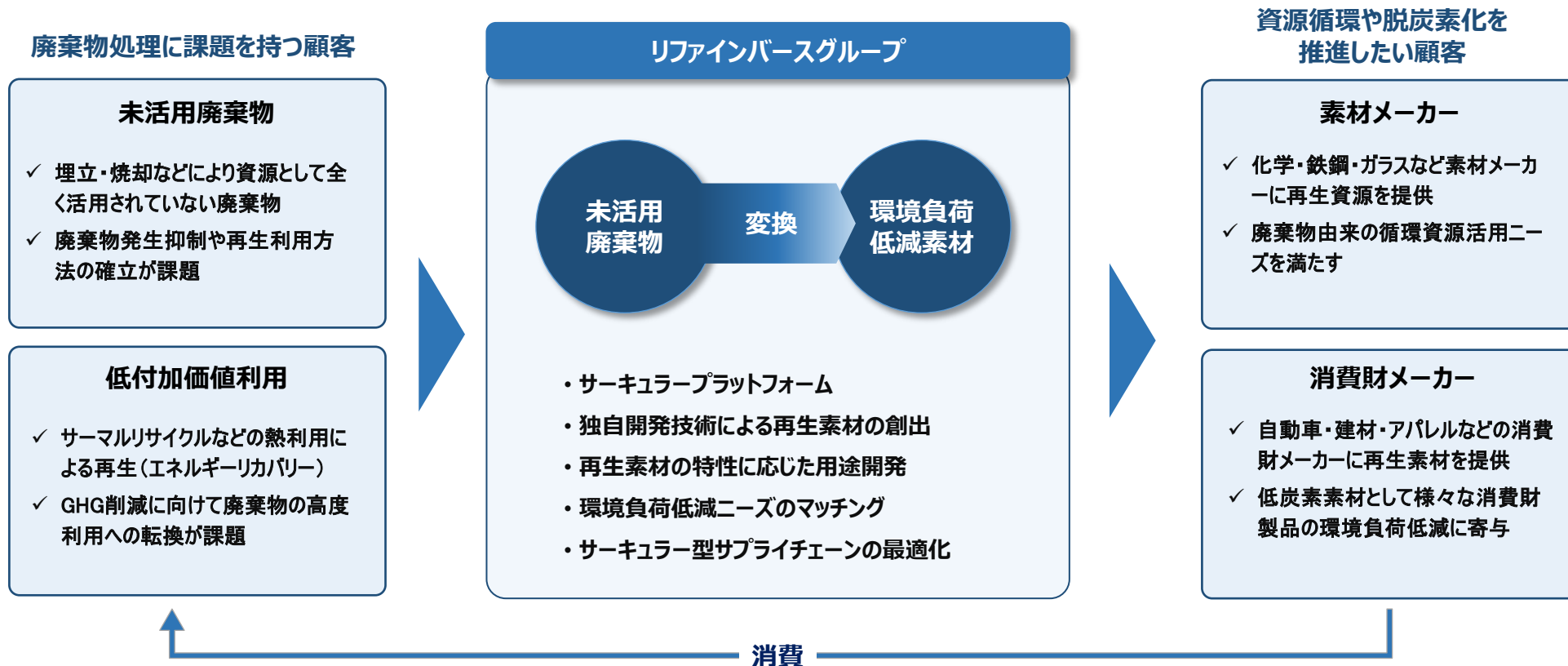
サーキュラーエコノミーへの移行が本格化しており既存のリサイクル事業が牽引役となり大きな成長機会が訪れている。
本計画期間は既存事業での収益を最大化し、ポテンシャルの高い新規事業への投資力を高めることで次期中計に繋げる。

《サーキュラーエコノミーへの移行と当社事業の変遷》



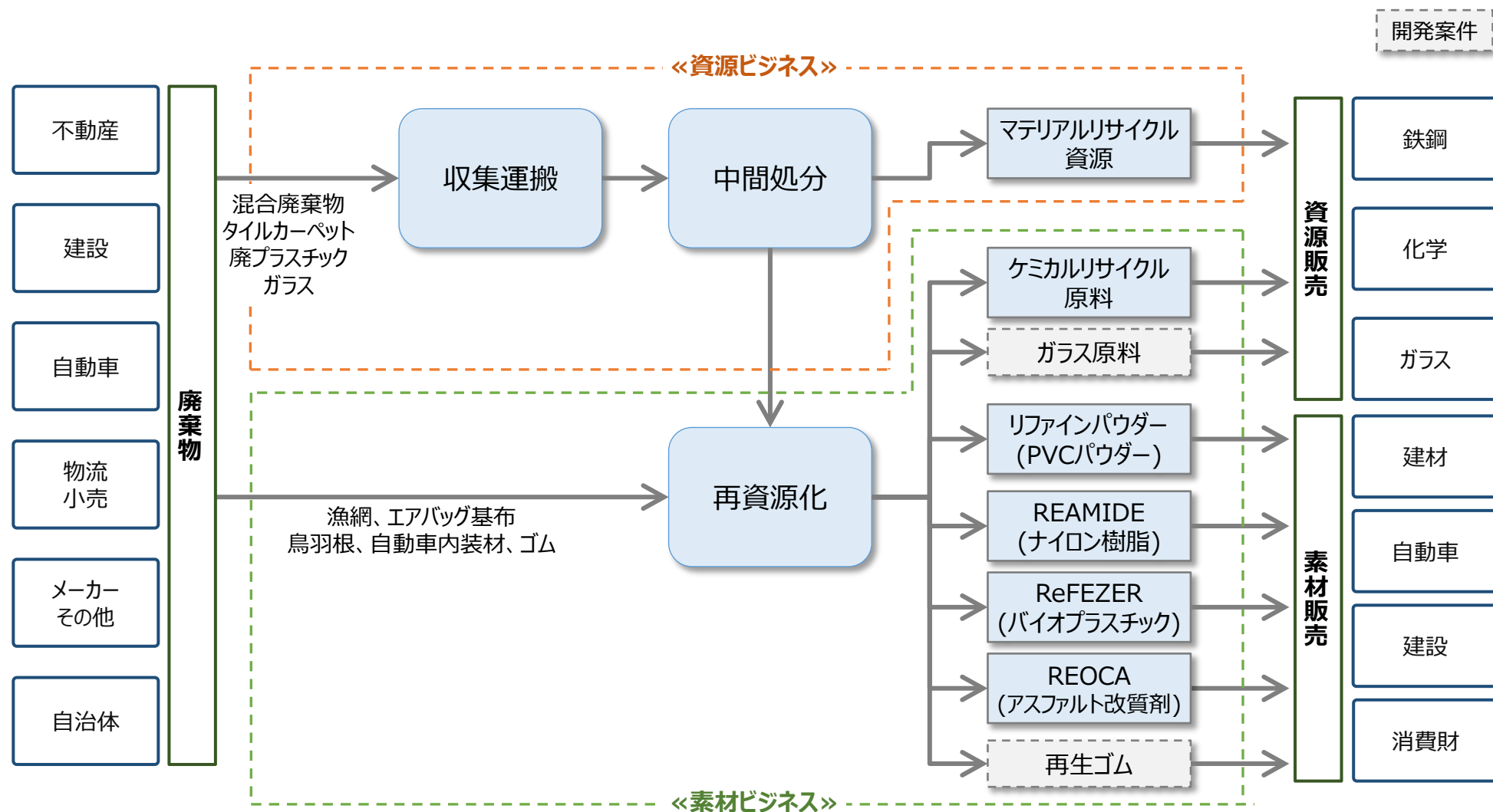
廃棄物処理の課題を独自の再資源化技術によって解決することでサーキュラーエコノミーへの移行を推進。

サーキュラープラットフォームのトランザクションを拡大していくことで持続的成長を実現する。



廃棄物の回収から資源・素材の販売まで一気通貫のビジネスモデルにより低コスト化と高品質化を両立。

顧客の課題解決能力と高品質・低コスト化によりサーキュラープラットフォームの拡大を進める。

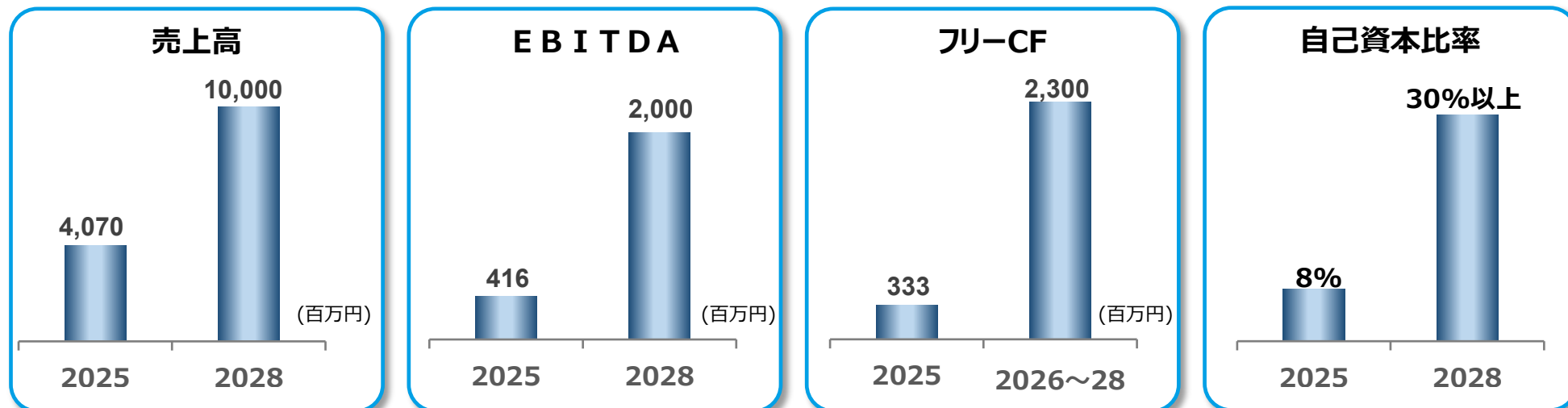


捨てるしかなかったものから素材や製品を生み出し、20年以上にわたり蓄積してきたノウハウを活かす体制を構築している。

1	一気通貫の事業モデル	埋立を目的とした従来型の廃棄物処理モデルとは一線を画し、再資源化を目的とした資源回収から再生資源・素材販売まで一気通貫の事業モデルを構築することで、中間マージンを省いた低コスト化と高品質を実現
2	幅広い顧客層	サーキュラープラットフォームの顧客となる「廃棄物処理に課題を持つ顧客」(インプットサイド)、「再生資源・低炭素素材を利用したい顧客」(アウトプットサイド)との業界横断での取引実績
3	技術開発力	タイルカーペット、漁網、エアバッグ基布、鳥羽根、自動車内装材などの従来はリサイクルが困難な未利用資源を再資源化する技術を独自開発する開発力
4	豊富な人材	「廃棄物処理の課題」、「再生資源・低炭素素材に対する要求」の性質の異なる課題解決を可能にする多様なバックグラウンド(メーカー、廃棄物処理、官公庁など)の人材
5	DX化	紙をベースにした廃棄物処理業務を排し徹底したデジタル化により社内外での業務効率向上、情報のデジタル化を実現し、デジタル情報を活用したサービスを顧客に提供可能

Growth100では、既存事業の拡大と新規事業の立ち上げによりトップラインの大幅な伸長を図り、2028年に売上高100億円（2025年比約2.5倍）を目指す。

収益・キャッシュ創出力の向上を原資に成長投資を継続し、次期中計に向けた事業基盤を構築。

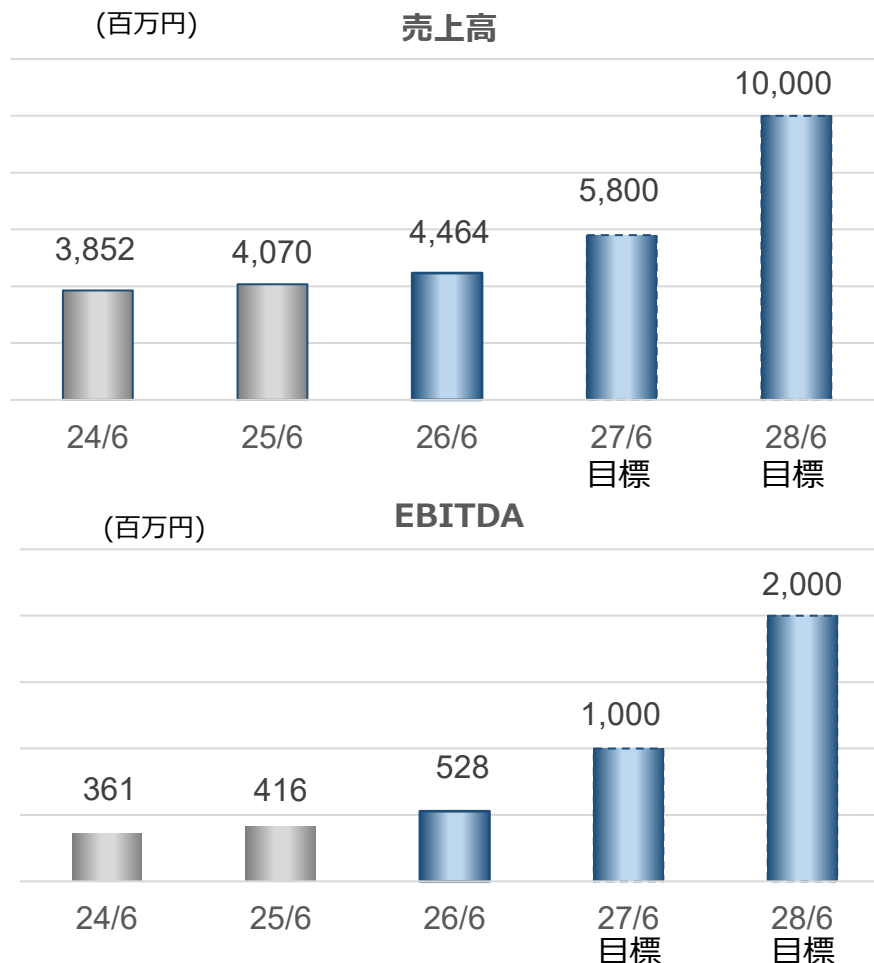


成長投資

事業	投資内容	投資額(億円)	状況
タイルカーペットリサイクル	生産性改善投資	0.8	実行中
資源ビジネス	中間処理工場能力向上	1.0	実行中
	物流機能強化	2.0	実行中
	中間処分工場M&A等	10.0	検討中
油化ケミカルリサイクル	ポリオレフィンリサイクル設備導入 (リファインバースイノベーションセンター)	6.0	実行済み
	ポリオレフィンリサイクル設備増設 (蒲郡工場)	3.2	実行済み
その他新規事業開発など		計 23.0+a	

大手デベロッパーを中心に新たな取引を開始により、タイルカーペットリサイクル、産業廃棄物処理共に売上高は増加したが、中東情勢の影響、新規顧客の受注拡大の遅れなどにより売上高の更なる向上は2027年6月期にずれ込み。

【売上高・EBITDA 2028年目標値】



【成長施策】

Growth100 成長施策

- リサイクルタイルカーペットの需要拡大に対応し、使用済みタイルカーペットの調達を拡大することで、処分受託・再生素材(リファインパウダー)の両面でトランザクション増大を図る
- タイルカーペット回収時に発生する混合廃棄物の処分受託量を拡大しトランザクション増大を図る
- 三菱ケミカルの油化ケミカルリサイクル設備稼働に伴い、高品質な油化ケミカルリサイクル原料、マテリアルリサイクル原料を供給しトランザクション増大を図る

次期中期への 再投資

- トランザクション増大に伴う収益を次期中期成長エンジンとなる再生素材の開発に再投資すると同時に、顧客開拓を進める

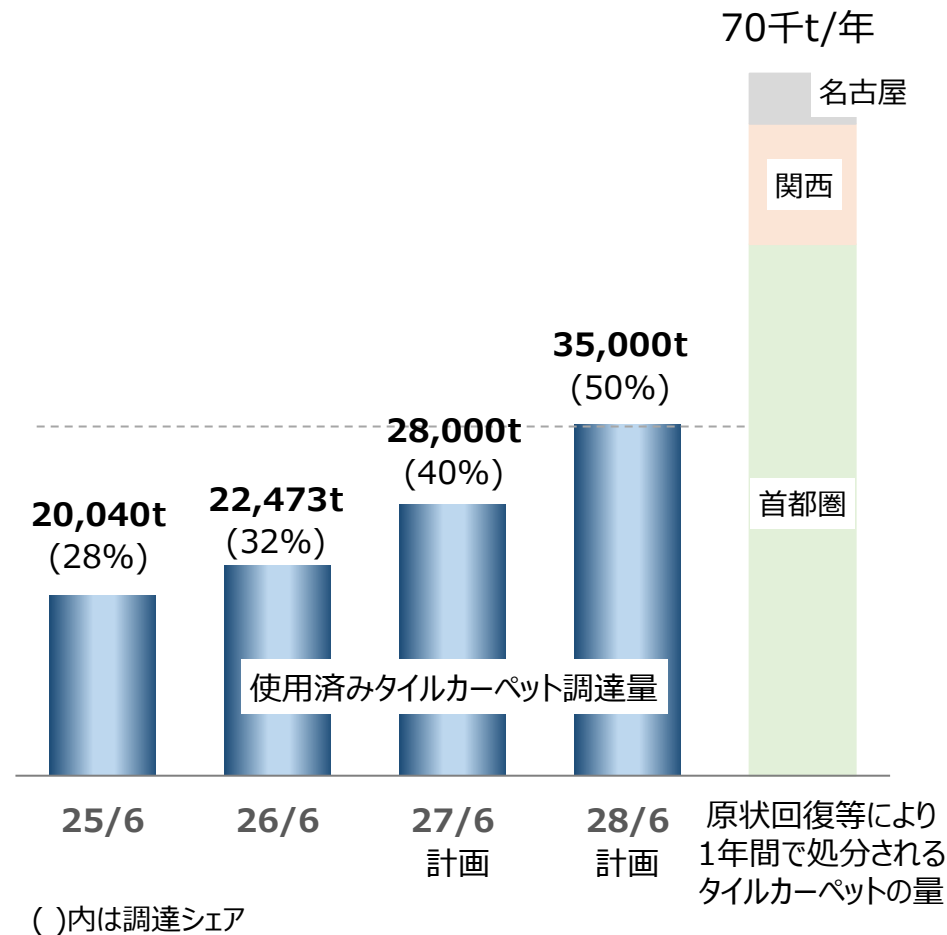
大手企業を中心としたサーキュラー化の本格的な取組を背景にタイルカーペットリサイクルが牽引役となり成長。

廃カーペット・廃プラケミカルリサイクルが差別化要素として牽引効果を発揮し、資源ビジネスの連動受注により大きく伸ばす。

KPI	成長施策	2025/6期 実績	2026/6期 実績	2027/6期 計画	2028/6期 計画
使用済み タイルカーペット 調達量	環境対応を重視する大手デベロッパーに対して、タイルカーペットリサイクルによる環境性能向上を訴求することで、原状回復工事で発生する使用済みタイルカーペットの回収を拡大	20,040t	22,473t	28,000t	35,000t
資源ビジネス 受注件数	- タイルカーペット回収時に同時に発生する混合廃棄物の処分委託を拡大することで、受注件数を拡大 - 受注件数の増加に伴う廃棄物処理量拡大に対応し、中間処分施設のM&Aを進める	42,857件	47,783件	64,300件	100,000件
ケミカルリサイクル 原料	三菱ケミカルの油化ケミカルリサイクル設備稼働に伴い、高品質な油化ケミカルリサイクル原料、マテリアルリサイクル原料の販売量を拡大	0t	100t	4,250t	20,000t

市場で発生する使用済みカーペットの回収率は25/6で28%程度と成長余地が大きく3年間で回収率50%を目指す。
サーキュラー化の取組を推進している在京の大手デベロッパーとの直接取引の強化により着実に回収量を伸ばす。

使用済みタイルカーペットに対する調達シェア



成長施策

- 大手デベロッパー(10社)を中心に、タイルカーペット・リサイクルによるCASBEE、GRESBなどの環境性能評価向上をフックとして、使用済みタイルカーペットの調達量拡大を進める。
- 環境負荷軽減に対するタイルカーペット・リサイクルの有効性について広報活動を強化し、デベロッパー、建設会社などの認知度向上を進める。
- 既存のタイルカーペットリサイクル工場のフル稼働により追加投資は不要。(フル稼働により粗利率大幅改善)

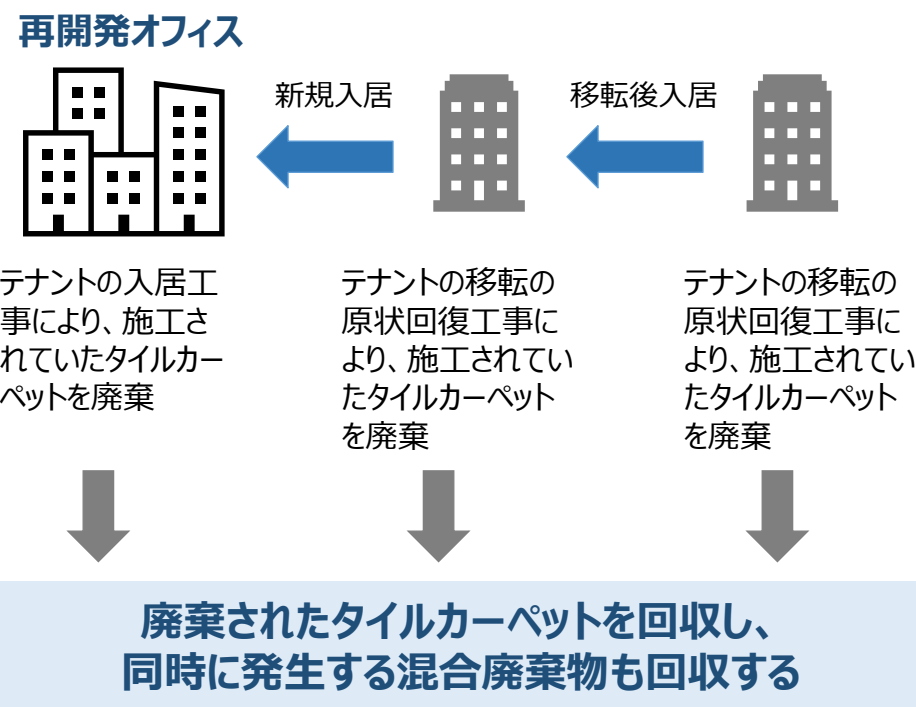
成長投資

- 生産性改善投資 :8千万円

オフィスビルの再開発に伴う企業移転の増加により、移転時に発生する廃棄タイルカーペットの回収機会が広がり、調達量が拡大
26年6月期において環境対応を進める主要なデベロッパーとは処分委託契約を締結済みであり、オフィス再開発により連鎖的に発生する廃棄タイルカーペットを回収していく。

■ オフィス再開発によるタイルカーペット廃棄の連鎖

オフィス再開発によるテナント入居工事を起点として、タイルカーペット廃棄の連鎖が発生する。
出社回帰トレンドにもあり都心部のオフィス空室率は2%程度と低いため、新規入居により空室が発生すると連鎖的にオフィス移転が発生する。



■ 主な都内再開発案件(50千㎡超)

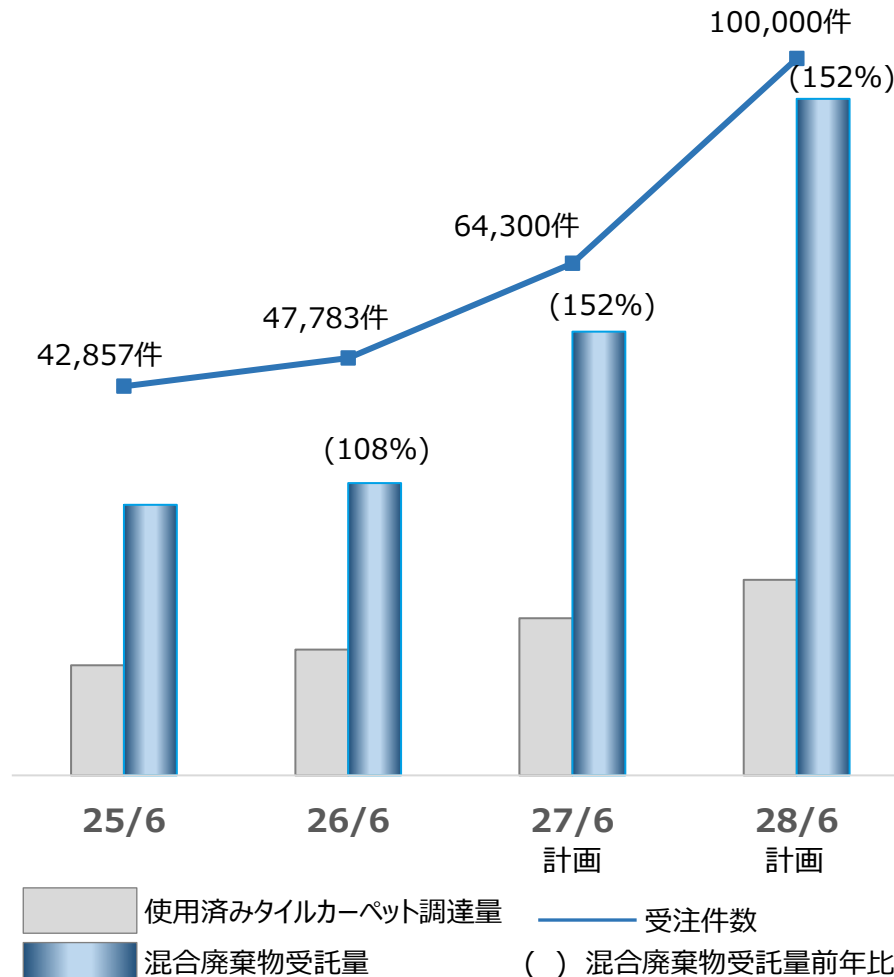
処分委託契約済デベロッパー

開発計画名	主要デベロッパー・事業者	延床面積(㎡)	タイルカーペット 使用量(t)
TOFROM YAESU TOWER	東京建物	225,000	900
大崎駅西口F南地区再開発	住友不動産	53,500	214
OIMACHI TRACKS BUSINESS TOWER	JR東日本	249,000	996
TAKANAWA GATEWAY CITY	JR東日本	208,000	832
中野M-SQUARE	住友不動産	91,200	365
大手町ゲートビルディング	三菱地所、NTT都市開発	85,300	341
明治安田生命新宿ビル建替計画	明治安田生命保険	96,900	388
東京ミッドタウン日本橋	三井不動産、野村不動産	386,700	1,547
大崎コアプロジェクト	東急不動産	69,100	276
世界貿易センタービルディング本館	JR東鹿児島建設ほか	302,000	1,208
TORANOGATE	中央日本土地建物、UR、住友不動産	119,900	480
渋谷区道玄坂二丁目計画	三菱地所	87,300	349
赤坂二・六丁目地区開発計画	三菱地所	206,000	824
TOKYO TORCH Torch Tower	三菱地所	551,000	2,204
東池袋一丁目地区再開発	住友不動産	155,600	622
八重洲二丁目中地区再開発	三井不動産、住友不動産	389,300	1,557
品川駅西口地区A地区	京浜急行電鉄、トヨタ自動車	313,100	1,252
HIBIYA CROSSPARK サウスタワー	中央日本土地建物	286,000	1,144
田町駅西口駅前地区開発	三井不動産、JR東日本	98,500	394
八重洲一丁目北地区再開発・南街区	東京建物	185,500	742

(公開情報より当社作成、タイルカーペット使用量は当社推定) 合計 17,816

デベロッパーからの使用済みタイルカーペット回収時に発生する混合廃棄物処理を連動受託することにより、産業廃棄物処理受託量の拡大を進める。

タイルカーペット調達に伴う混合廃棄物受託量



成長施策

- 使用済みタイルカーペット1t当り20立米の混合廃棄物が発生するため、それらの処分を連動して受託することにより混合廃棄物の処理受託量の拡大を進める。
- 混合廃棄物の処理受託量の増加に対応し、中間処理工場の能力増強を進める。
- 更なる処理受託量の増加に対応するため、中間処理工場のM&A等を検討する。

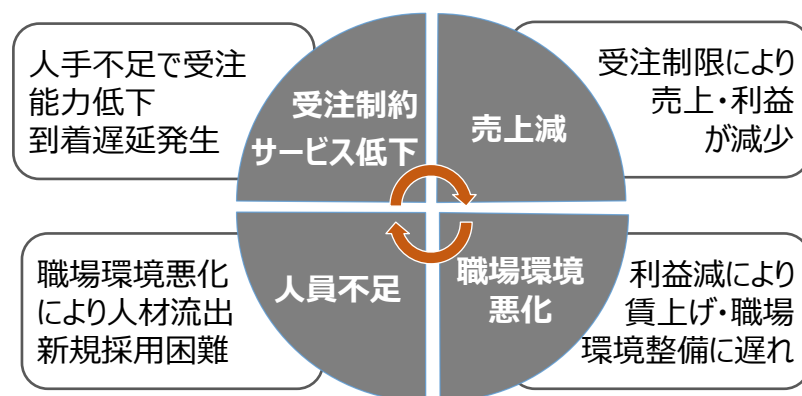
成長投資

- 中間処理工場能力向上 :1億円
- 物流機能強化 :2億円
- 中間処分工場M&A等 :10億円

産業廃棄物処理業界は現業の人手不足により受注制限やサービスレベルの低下が発生。

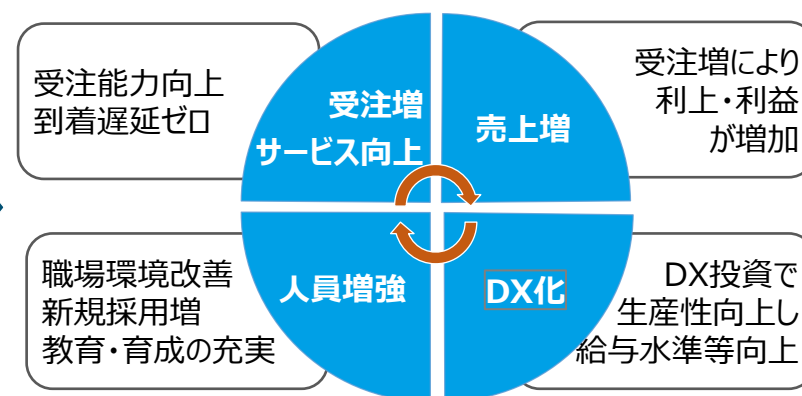
現場作業者の確保には魅力的な環境(給与水準、職場環境)が必要であり、DXを活用し間接業務の率化を進め、生産性向上の成果を人件費、環境整備の原資として人材確保を進め競争力向上を図る。

《産業廃棄物処理業界の構造的問題》



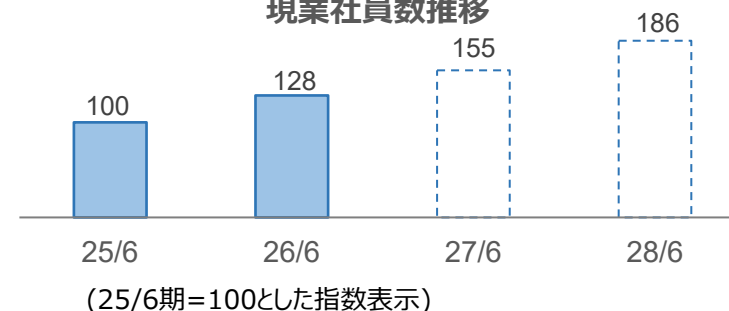
人口減による人手不足が人件費の高騰を招き成長の阻害要因となっており、特に産業廃棄物業界では人員不足により受注制約、サービスレベル低下が顕在化している

《当社の競争優位性》



積極的なDX投資、AX投資により事務系業務効率化を進める事で創出される経営資源を現業人材の採用・育成に投資することで受注能力・サービスレベルの向上を図る。

現業社員数推移



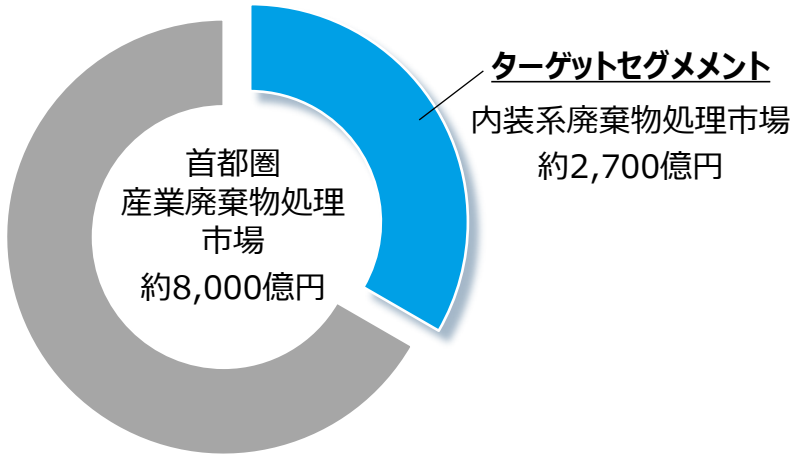
首都圏(1都3県)の内装系産業廃棄物処理市場は、約2,700億円と推定され、中小の産業廃棄物処理事業者が多数競合する市場のため、有効な差別化戦略を構築することにより大きな成長が可能になる。

2026年6月期に大手デベロッパーを始めとする大口顧客との産業廃棄物処理契約は完了しており、差別化戦略により受注量を大幅に増加させていく。

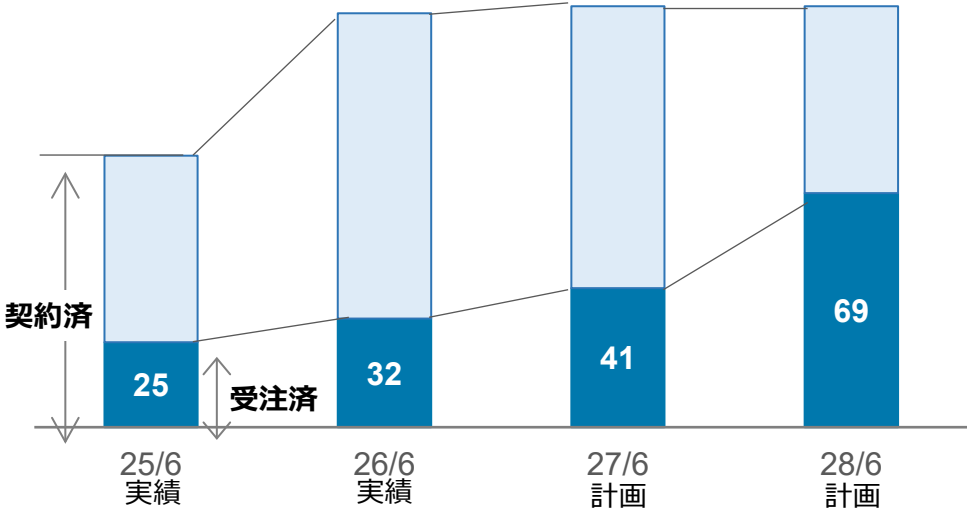
《首都圏の産業廃棄物処理市場》

《産業廃棄物処理の成長戦略》

(億円)



(政府、自治体の各種公開資料より当社推定)

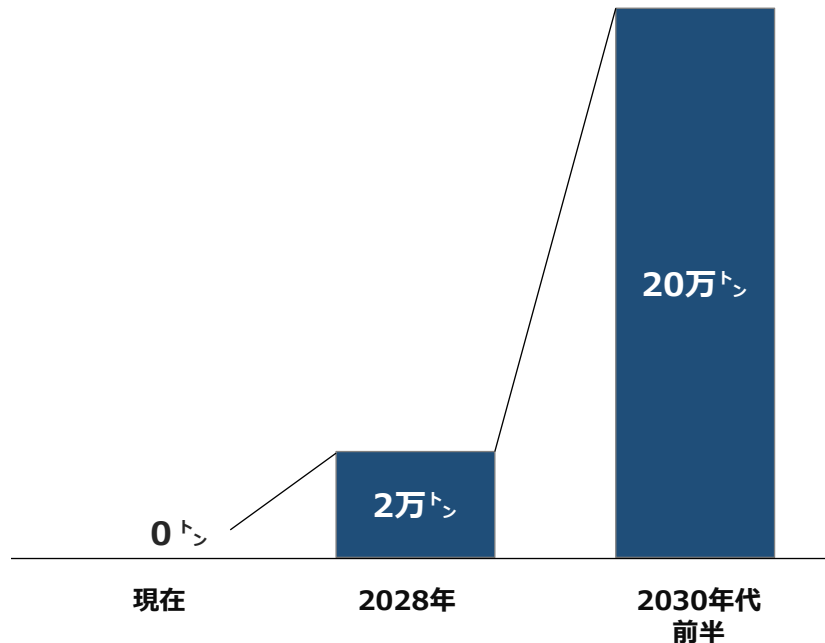


	成長戦略
2026/6期 (実績)	タイルカーペット・リサイクルをフックとして大手デベロッパー、内装デザイン事業者を中心に新規契約を締結し、受注を開始。
2027/6期	契約締結済顧客を中心に他社との差別化を進め、受注量を大きく拡大すると同時に、新規顧客の獲得を進める。
2028/6期	前期に獲得した新規顧客からの受注を更に積上げると同時に、既存顧客からの受注量を拡大する。

本中期計画期間中はケミカルリサイクル向け原料供給ビジネスの立上げ期の位置付け。

高品質化技術を活用した量産プロセスと廃プラ回収網を構築し、2030年代の規模拡大に向けて事業基盤を確立する。

《ケミカルリサイクル向け原料供給目標数量》



成長施策

- 他のリサイクル事業で培った独自の分離精製技術を活用し、ケミサ向け高品質原料化プロセスを確立。
- 中品質の熱利用向け廃プラの調達ルートを確認し、価格競争に巻き込まれない安定調達ネットワークを構築する。
- 2030年代に見込まれている需要増大に向けて調達・製造体制を整備。
- 2030年代に100億円程度のコア事業に成長させるために、本中期計画期間でビジネスモデルを確立する。

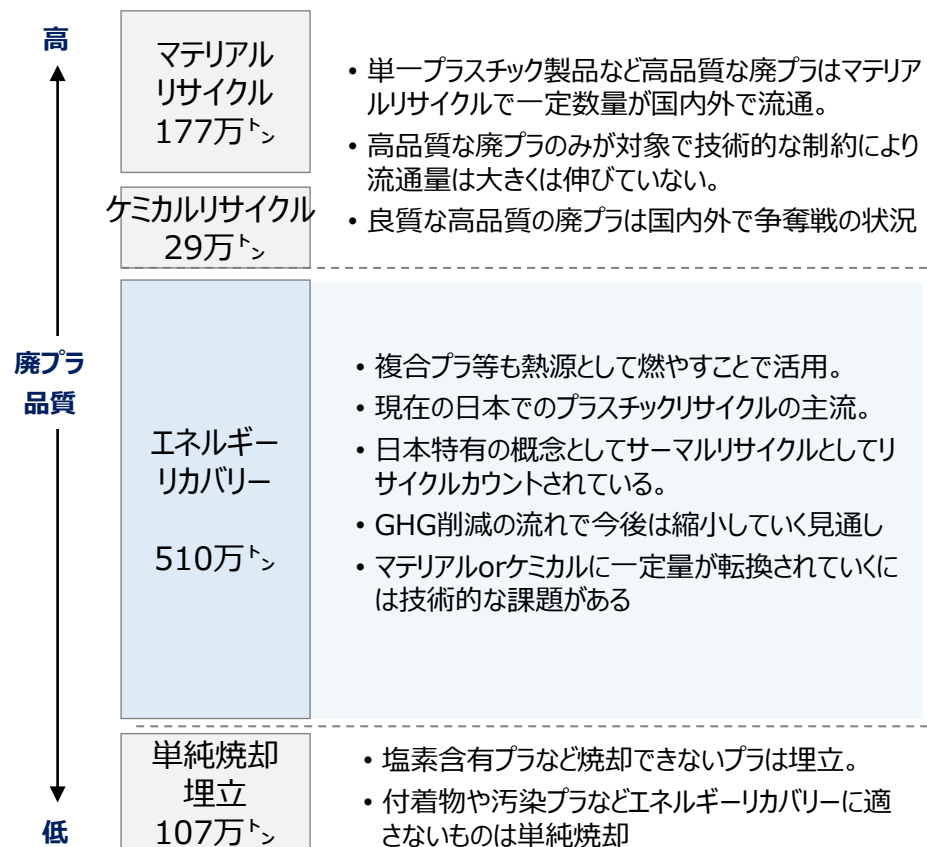
成長投資

- ポリオレフィンリサイクル設備導入：(リファインバースイノベーションセンター) : 6億円
- ポリオレフィンリサイクル設備増設 (蒲郡工場) : 3.2億円

三菱ケミカルの油化ケミカルリサイクルやマテリアルリサイクル向けに年間20千tの廃プラ原料を供給。

現在主流となっている廃プラスチックのエネルギーリカバリーから資源循環に移行させ脱炭素化に貢献する。

《廃プラ処理の現状》



《廃プラ処理の今後》

- ✓ 複合プラの選別や異物除去などによりエネルギーR向け廃プラ高純度化処理を行う。
- ✓ 高純度化されたプラはケミカルRないしはマテリアルR向け原料として提供。
- ✓ 高純度化処理によりエネルギーRされている廃プラの一定比率がケミカルリサイクルされることでGHG削減、炭素循環に貢献。

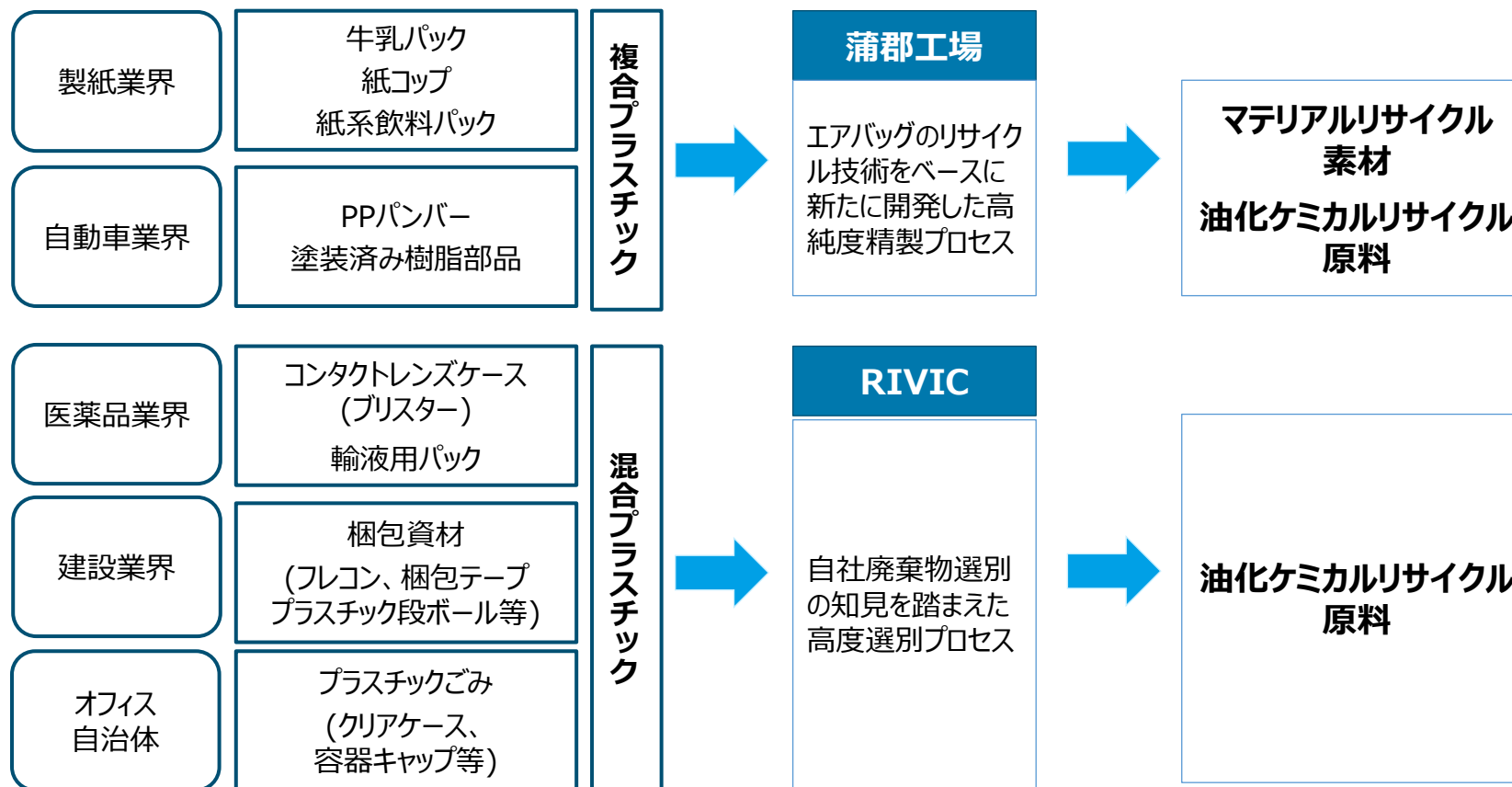
当社が培ってきた廃棄物の選別や分離精製技術を駆使し、
熱利用されている廃プラを高品質化

(出所: プラスチック循環利用協会, プラスチック製品の生産・廃棄・再資源化・処理処分の状況)

三菱ケミカルの油化ケミカルリサイクル設備竣工と同期し、蒲郡工場(愛知県蒲郡市)、および、RIVIC[リファインバースイノベーションセンター](千葉県富津市)にポリオレフィンリサイクル設備を導入。

油化ケミカルリサイクル原料、マテリアルリサイクル素材製造に向けたポリオレフィンリサイクルのサプライチェーンを拡大していく。

《ポリオレフィン※リサイクルの概要》



※ ポリエチレン(PE)、ポリプロピレン(PP)などのプラスチック樹脂の総称

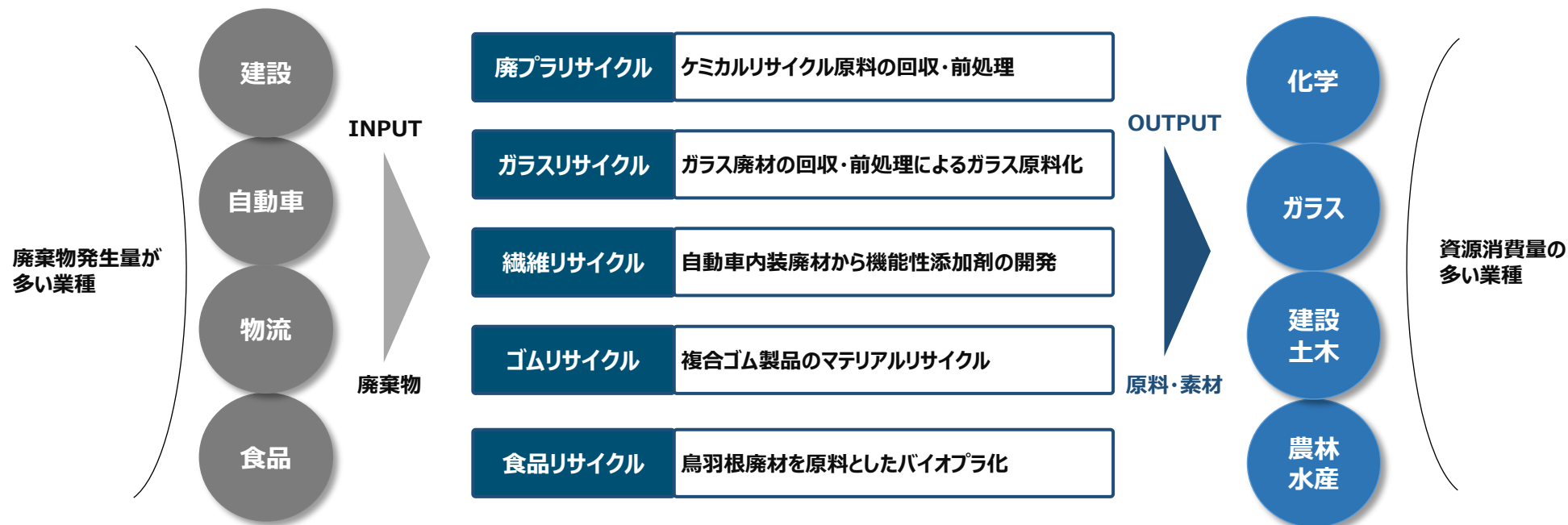
多数の業界から幅広くポリオレフィン廃材を回収しケミカルリサイクルするため、多数の企業と連携してサプライチェーン構築に向けた検証プロジェクトを実施。

今後は、検証したサプライチェーンを実装しポリオレフィンリサイクルの数量拡大を進めていく。

	パートナー企業	サプライチェーン構築
製紙業界	大手製紙会社	複数の大手製紙会社と、牛乳パック残渣のリサイクル調達に向けた協議を実施中
自動車業界	トヨタ自動車、三菱電機、三菱ケミカル その他自動車メーカー	「自動車等向け再生プラスチック安定供給体制の構築のためのFS事業」によりサプライチェーンを検証 - 自動車パンパーの塗装剥離に成功し、自動車メーカーと協議開始
医薬品業界	シード、大手製薬会社 三菱ケミカル	- シードとコンタクトレンズケース(プリスター)のケミカルリサイクルについて実証実験を開始 - 大手製薬会社と使用済み廃プラのリサイクルを協議開始
建設業界	鹿島建設、竹中工務店 NIPPON EXPRESSホールディングス 三菱ケミカル	「プラスチック資源循環に関する先進的実証モデル形成支援事業」により建設廃プラのケミカルリサイクルを検証し、サプライチェーン構築中
オフィス自治体	三菱UFJ銀行、東洋製罐グループ、キューピー 茨城県鹿島市、大日本印刷、三井物産 三菱ケミカル	「広域自治体における資源循環システム構築の実証事業」、「オフィスから排出される使用済みプラスチックの循環利用に関する実証実験」、「プラリレープロジェクト」などの複数の実証プロジェクトを実施

廃材排出量と再生資源需要量の双方に大きな市場を有する未活用資源をターゲットとして事業開発を行っている。
本中期計画期間中に技術開発投資と事業化準備を進め、次期中期計画の成長の核になるように育てる。

《現在取り組んでいる新規事業案件》



動脈企業が求める再生素材の品質基準・コスト水準を満たす再生技術を開発することで、
静脈と動脈を繋ぐ新しい流れを創り出すことができる。

自動車廃材由来の機能性アスファルト改質剤「REOCA」を商品化しテストマーケティング(実証施工)を開始。

	開発の目的	開発製品名	開発進捗
繊維リサイクル	自動車内装廃材から機能性添加剤の開発	REOCA	自動車内装材は、日本国内で年間約16,000トンの内装材端材が発生おり、その多くがサーマルリサイクルとして焼却。 トヨタ紡織と協業し、自動車内装材の再資源化について検討を進め、これらの内装材をアスファルト改質剤「REOCA」としてマテリアルリサイクルすることに成功。 今後は機能性の実証施工を行いつつ供給を拡大。 《実証施工による機能性検証状況》 ・ 自社工場内の路面舗装 ・ トヨタグループの工場・駐車場等の路面舗装 ・ 商業施設の駐車場等での検証を計画中 

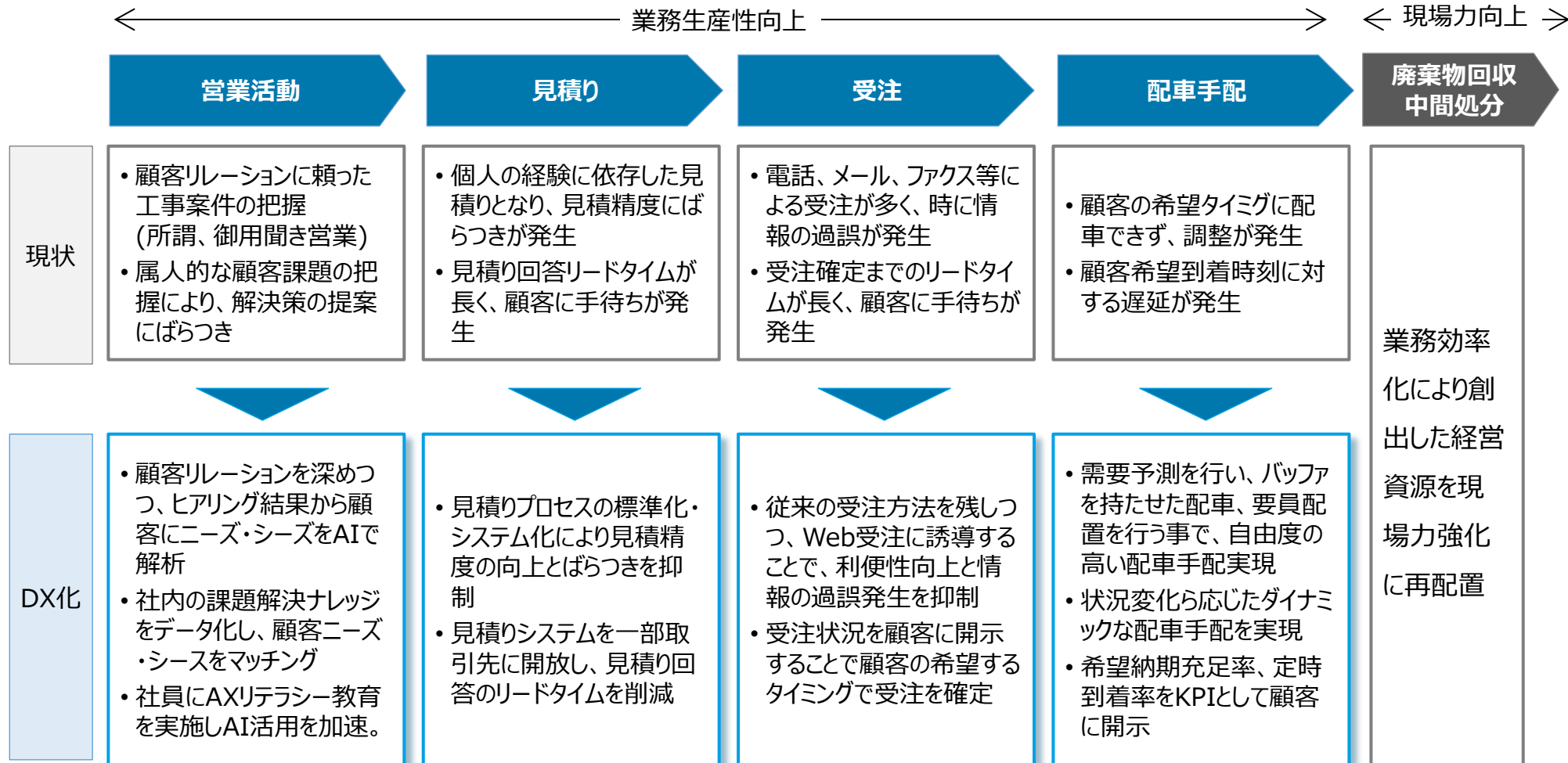
ゴム廃材を再生した新素材「RENAMY」を開発し、ダストコントロールマットの水平循環型リサイクルを実施。
更に、タイヤゴムのリサイクルを視野に開発を実施中

鳥羽根を原料としたバイオプラスチック「ReFEZER」の実証事業を東伊豆町と用途開発に向けた実証実験を開始。

	開発の目的	開発製品名	開発進捗
ゴムリサイクル	複合ゴム製品の マテリアルリサイクル	RENAMY	クリーンテックス・ジャパンが提供する高機能マット(ダストコントロールマット)を分離・再生し、再生ニトリルゴム(NBR)「RENAMY」を開発。 クリーンテックス・ジャパンが、再生素材 RENAMYを同社の「クリーンエコスクレイプ」として製品化することで、タイルカーペットと同様の水平循環型リサイクルを実現。 《今後の用途開発計画》 タイヤゴム(SBR)の再資源化に向けた開発を実施中。 自動車メーカー、タイヤメーカーと協業し、タイヤのリユース、リサイクルなどの「タイヤ to タイヤ」リサイクル、「タイヤ to X」リサイクルに向けた用途開発中 
食品リサイクル	鳥羽根廃材を原料 としたバイオプラ化	ReFEZER	リファインバースグループは、東伊豆町稲取でビーチクリーン活動として漁網などのゴーストギアの回収を実施しており、これらの活動を通じて、鳥羽根再生素材「ReFEZER」を利用した海洋資源再生の実証実験を東伊豆町と共同で開始。 伊豆半島 ● 東伊豆町 

AI利用の拡大を始めとしたDX化の推進により、業務生産性の飛躍的な向上を図ることで経営資源の再配置を進め、事業成長に不可欠な現場人員を拡充により競争優位性を確立する。

《DX/AX推進例：資源セグメント》



– Appendix –

誰にもない視点と技術で、
未来へ富をつないでいく。

会社概要

会 社 名： 株式会社リファインバースグループ

資 本 金： 163百万円（2026年6月末）

設 立： 2021年7月（創業1983年）

従 業 員： 233名(グループ全体)

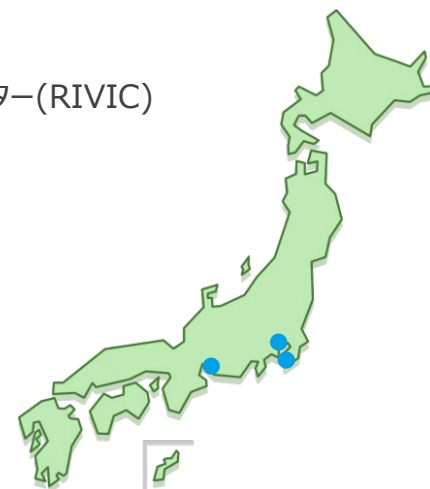
関連会社： リファインバース株式会社

株式会社ジーエムエス

リファインマテリアル株式会社

主要拠点

- 本社 東京都千代田区丸の内
- 千葉工場 千葉県八千代市
- リファインバースイノベーションセンター(RIVIC)
千葉県富津市
- 蒲郡工場 愛知県蒲郡市
- 船橋ラボ 千葉県船橋市
- TACS3 東京都大田区
- 葛飾工場 東京都葛飾区
- 鹿浜工場 東京都足立区



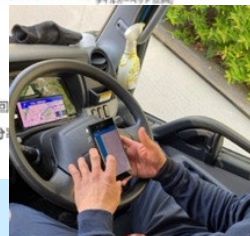
2003年に前身であるリファインバース株式会社を設立し、カーペットタイルやナイロン樹脂のリサイクルを中心に事業を拡大。

- | | |
|-------|---|
| 2003年 | ・ リファインバース株式会社を設立 |
| 2006年 | ・ 千葉県八千代市でカーペットタイルリサイクル工場操業開始 (千葉工場) |
| 2011年 | ・ 住友商事・住江織物と共同開発したリサイクルカーペットの販売開始 |
| 2016年 | ・ 日東化工(株)よりリサイクルナイロン樹脂事業を承継
・ 東証マザーズ上場
・ 再生樹脂製造子会社リファインマテリアル(株)設立 |
| 2017年 | ・ 開発拠点であるリファインバースイノベーションセンター(RIVIC)竣工
・ 建設系廃棄物を原料とした製鋼副資材の製造販売を開始 |
| 2019年 | ・ リサイクルナイロン製造拠点の一宮工場竣工
・ 再生ナイロンコンパウンド「REAMIDE®」の販売開始 |
| 2021年 | ・ 株式会社リファインバースグループ設立。持株会社体制へ移行 |
| 2022年 | ・ 資源ビジネス事業領域拡張のため株式会社コネクションを買収
・ 株式会社鈴木商会にライセンス供与し、北海道で「REAMIDE®」の生産を開始
・ 廃車から回収したエアバッグからリサイクルナイロン樹脂製造を開始 |
| 2023年 | ・ サーキュラーエコノミーの研究開発拠点「COCO Lab.」を千葉県船橋市にオープン
・ 再生バイオ素材「ReFEZER®」を発表 |
| 2024年 | ・ マスバランス方式による資源循環に対応するため「ISCC PLUS」認証を取得 |
| 2026年 | ・ 株式会社コネクションを株式会社ジーエムエスに統合
・ ポリオレフィンリサイクル事業を開始
・ 蒲郡工場を新設し、一宮工場から移転 |

小規模解体工事→収集運搬→中間処理の一貫体制による利便性・対応力の強さで首都圏中心に事業展開。

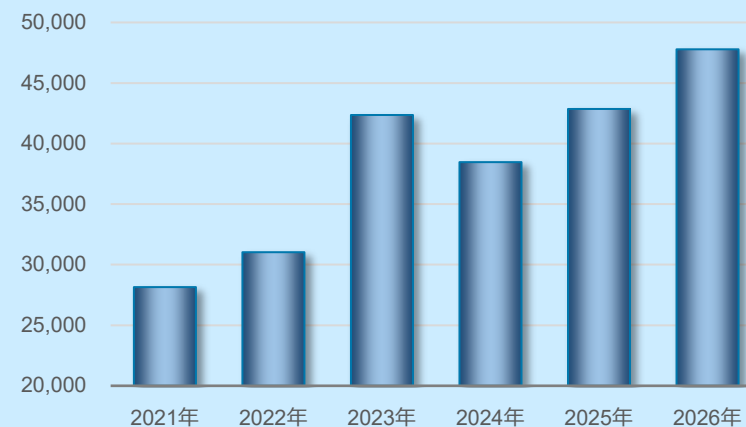


受注件数



全社で排出する廃棄物の数量、金額、単位で可視化。廃棄物の回収品目を100分
ル率なども表示。※一部公開済み

詳細な処分品目毎にリサイクル率を可視化し顧客に提供



これまでに有効利用されていない廃棄物を独自開発技術で再生処理を行い様々な素材を製造。
アパレルや自動車部品、建築資材など幅広い分野で“ポストコンシューマーリサイクル材料”として活用されている。

《リファインバースのリサイクル事業実施例》



本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。



免責事項

本資料に掲載されている当社の計画、見通し、戦略等は、現在入手可能な情報から得られた当社の経営判断に基づくものであり、様々なリスクや不確定な要因等により、実際の業績等は当社の見通しと異なる可能性があります。